

2022 年度 女子中高生理系進学推進セミナー開催レポート

2022 年 8 月 9 日（火）～12 日（金）、名古屋大学では「女子中高生理系進学推進セミナー2022」をオンライン形式で開催しました。本セミナーは、女子中高生の皆さんに理系分野の魅力を伝え、進路選択の参考にさせていただくことを目的としています。

2022 年度も、動画オンデマンド配信とテキストチャットでの質疑応答を組み合わせた形式で実施し、オンラインでも双方向の交流ができるよう工夫されました。

開催概要

- **開催期間**：2022 年 8 月 9 日（火）～12 日（金） オープンキャンパスと同時開催
- **動画配信期間**：2022 年 8 月 9 日（火）～31 日（水）
- **形式**：動画オンデマンド配信＋テキストチャットでの質疑応答
- **対象**：中学生・高校生および保護者、教員など
- **参加登録者**：76 名（一般申込者 72 名、職員・教員 4 名）
- **動画再生回数**：延べ 169 回

プログラム内容

(1) スペシャルトーク（8 件）

- 川口由紀（工学研究科・教授）
「超流動・超伝導現象の不思議」
- 浦田真由（情報学研究科・講師）
「デジタル社会の実現へ向けて」
- 鳴瀧彩絵（工学研究科・教授）
「ナノスケールの世界を工学する」
- 野元美佳（遺伝子実験施設・助教）
「新規技術が開拓する植物科学の世界」
- 菊地真理子（理学研究科・助教）
「生命をつなぐ性と生殖細胞の不思議」
- 星野藍子（医学系研究科・講師）
「すべての人の価値ある活動（occupation）の実現を目指して：心の病と meaningful occupation」
- 石井敬子（情報学研究科・准教授）

「生まれか育ちか：文化神経科学からのアプローチ」

- ・ 大島優（工学研究科・助教）

「暗闇で柔らかくなる材料の不思議」

(2) 学部紹介 (19 件)

理学部・医学部・工学部・農学部・情報学部の各学部から、多様なテーマのショートムービーが配信されました。地球環境科学、建築環境、資源昆虫学、森林生態学、AI、文化神経科学など、最先端の研究がわかりやすく紹介され、参加者は大学での学びや研究の具体的なイメージを深めることができました。

参加状況と全体の反応

76 名が登録し、動画は延べ 169 回再生されました。チャットでの質問も活発に行われ、研究内容だけでなく、大学生活や将来の進路に関する相談が多く寄せられました。

まとめ

2022 年度は、研究分野の多様さとオンラインでも参加者が主体的に学べる仕組みが特徴的でした。名古屋大学では、今後も女子中高生の理系進学を支援し、それぞれの夢の実現を後押ししてまいります。

confi

過去のプログラムはこちら

ご利用ガイド

アカウント登録・ログイン

検索履歴

マイメニュー

ログインするの講座に関するコメントを投稿できます。

アカウント登録・ログイン

講座検索

サイト内検索

検索

過去のプログラムはこちら

女子中高生理系進学推進セミナー2022

開催日: 2022/08/09(土)~2022/08/12(金)

科学の魅力をもっと知りたい!
いつかは理系の分野で働きたい!

そんな未来の理系女性研究推進セミナーが今年もオンラインで実現。
最前線で働く女性研究者や女子学生が、研究の魅力ややりがいを実話トーク。
聞きたいことやご質問にもお答えします。
一緒に考えながら、未来への夢を育てましょう!!

◆お申込みはこちらから
<https://ssl.form-mailer.jp/fms/1ef50629749976>

◆対象 中高生、高校生、高専生(男子生徒も歓迎)及び保護者、教員等

◆形式 オンライン配信

◆日時 2021年8月9日(土)~12日(金)
8月9日(土) 10:00 配信開始

※動画は8月31日まで視聴できます。

◆スペシャルトーク
①工学研究科 教授 川口由紀
「超流動・超伝導現象の不思議」

女子中高生理系進学推進セミナー2022 トップページ



スペシャルトーク

スペシャルトーク

暗闇で柔らかくなる材料の不思議

コメント(2)

1.

**Yuka**
2022/08/12 21:13 [返信]

暗闇で柔らかくなる材料を初めて知り、大変驚きました。
2点質問させてください。
①そもそも、どうして暗闇で実験してみようと思ったのですか。
②ZnS以外でも、同じようなことが起きるのでしょうか。

2.

**太田 俊 (工学研究科)**
2022/08/24 22:25 [返信]

ご質問ありがとうございます。
まず①についてですが、実は研究を始めた当初は「光環境を変えて硬さを調べよう」というモチベーションはありませんでした。
他の目的で変形試験を行っている最中に、その挙動を観察するためにカメラで撮影を行っていました。
その際のフラッシュが変形挙動を変化させているようにみえたことから着想を得ています。
②その後の研究で、ZnS以外でも類似の傾向を示す材料があることがわかってきています。
そもそも変形試験時の光環境について、これまであまり気にされず実験が行われてきていますので、今後さらに他材料への拡張が期待されます。

質疑応答